

児童の規範意識を高め，規範的な行動を促す  
単元構成の工夫

～心理教育プログラムSELを活用した総合単元プランを通して～

中山 和彦・小泉 令三

福岡教育大学教育学部  
附属教育実践総合センター

2010年3月

# 児童の規範意識を高め、規範的な行動を促す単元構成の工夫

～心理教育プログラムSELを活用した総合単元プランを通して～

Enhancing children's normative consciousness and behavior in a comprehensive learning unit combined with Social and Emotional Learning

中山 和彦

Kazuhiko NAKAYAMA

(福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻生徒指導・教育相談リーダーコース／朝倉市立立石小学校)

小泉 令三

Reizo KOIZUMI

(福岡教育大学教職実践講座)

## 要 約

本研究は、道徳・特別活動・日々の教育活動と社会性と情動の学習(SEL)を組み合わせた総合単元プランを作成し、小学5年生の児童の規範的な行動育成の効果検討を目的とした。規範的な行動を測定するための尺度(規範測定尺度)を作成し、事前と事後に、この規範測定尺度とSEL 8つの能力尺度を用いて、規範的な行動とそれに影響を及ぼすと考えられる社会的能力の変化を検討した。実験群1学級での2カ月の実践の結果、統制群1学級と比較して、規範測定尺度では2つの下位尺度で、またSEL 8つの能力尺度では5つの下位尺度で有意または有意な傾向の効果が見られた。規範意識と規範的な行動の育成に、道徳や特別活動などとSELを組み合わせたプログラムが有効であることが確認された。

キーワード：小学生、規範意識、規範的な行動、社会的能力、総合単元プラン  
社会性と情動の学習、規範測定尺度

## 問題と目的

青少年の起こした凶悪な犯罪や、学校の荒れ、あるいは学級崩壊などの話題が、新聞紙上を賑わすことの多い今日、大きな問題と指摘されているのが青少年の規範意識の低下や逸脱行為の増加である。

日本青少年研究所(2002)<sup>1)</sup>によると、たばこを吸う、友達をいじめるなどの逸脱行為に関する規範意識調査の結果、日本の中学生は米・中を含めた3カ国の中学生の中で規範意識が最も低く、10年前と比較しても低下傾向にあることが示されている。さらに、国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2009)<sup>2)</sup>のデータでは、小学4年生～中学3年生を対象にした調査によると、逸脱行為(掃除当番などの学級の仕事をさぼる、先生にさからうなど)の割合は、10年前と比べると増加している。

そうした実態をうけ、新学習指導要領<sup>3)</sup>では、道徳の時間を要として学校教育活動全体を通じた道徳教育の重要性について述べられている。特に、基本的な生活習慣や社会生活上のきまりを身につけ、してはならないことをしない児童生徒の育成が図られている。つまり、規範意識の高まりと規範的な行動が求められている。

規範とは、社会規範や集団規範と同義に用いられ(福

富, 1977)<sup>4)</sup>、「社会や集団において個人が同調することを期待されている行動や判断の基準、準拠棒」(小関, 1999)<sup>5)</sup>とされている。規範の内容について北川(1984)<sup>6)</sup>は、①ルール(法: 平等に守るように義務づけられること)、②マナー(慣習: 生活上の必要に基づき反復して行われる行動であり、一定の作法がある)、③モラル(道徳: よりよく生きるために、よりよい行いを積極的に志向すること)の3つに分類している。その規範に基づいて判断、評価、行動しようとする態度や感覚が規範意識(福岡県教育センター, 2008)<sup>7)</sup>である。さらに、規範的な行動とは、「規範の内容を望ましい価値と見なし、自発的な動機に基づいてとる行動」(福岡県教育センター, 2008)<sup>7)</sup>としている。

規範意識に関する研究は、これまでもいくつか報告されている。まず、規範意識や行動に関する尺度について見てみると、少なくとも3つの教育機関(福岡県教育センター, 2008<sup>7)</sup>;群馬県教育センター2007<sup>8)</sup>;栃木県教育センター, 2006<sup>9)</sup>)が作成している。この3つの尺度は、把握したい目的や質問の対象が異なっている。「子どもの規範的な行動の調査資料」(福岡県教育センター, 2008)<sup>7)</sup>は、児童を対象とし、学校生活に関する質問が10項目と精選されているが、整理整頓・後片付けなど学校生活を送る上で大切な規範の項目が含まれていない。また、「学校・家でのルールやきまり

についてのアンケート」(群馬県教育センター2007)<sup>8)</sup>と、「子どもの生活に関するアンケート」(栃木県教育センター, 2006)<sup>9)</sup>については, 児童だけでなく保護者も対象としており, 学校生活だけでなく家庭生活や地域での活動に関する内容も含まれている。確かに, 規範意識は, 学校だけでなく家庭の協力も必要なことから, 保護者の意識を調査し, 学校と家庭で連携した取り組みが求められるところである。しかし, 学校の教育活動が直接的に児童の規範意識や規範的な行動にどのような効果をもたらすのか検証するためには, 学校の教育活動に限定した質問に精選する必要がある。そこで, 学校生活を中心とした児童の規範意識や規範的な行動を測定するために, より共通化された尺度が必要であると判断した。

規範意識の様相に関する研究として, 大久保・加藤(2008)<sup>10)</sup>は, 荒れた中学校と落ち着いている中学校の生徒を規範意識と行動から4類型化し, その特徴を明らかにした上で, 集団の特徴にあわせた指導を工夫する必要性を指摘している。ほかにも, 白井・橘川(2007)<sup>11)</sup>は, 規範意識が下がりやすいのは中2の時期であり, 女子より男子に規範意識の低下が起りやすいことを示している。さらに, 中学生の規範意識を高める促進要因として, 自己有用感, 自尊感情, 共感性, 誘惑への抵抗の4つの要因をあげている。

以上のような研究はあるものの, 学校教育現場においては, 規範意識を高めるために, 具体的にどのような教材を用い, どのような機会を捉えて, どのような場面で指導・支援していくかは明らかにされていない。規範意識や規範的な行動の具体的な指導の在り方については, 一つの教科や領域の学習では難しく, 教科, 道徳, 特別活動や日常的な活動を関連づけ, 児童生徒の課題意識をもたせた学びになるよう配慮する必要があるとされている(福岡県教育センター(2008)<sup>7)</sup>。つまり, 教科や道徳, 特別活動, 日常的な活動を組み合わせることにより, 規範意識を高め, 規範的な行動がより実践的に身につくのではないかと考えられる。

ここで, 二宮(1991)<sup>12)</sup>は, 対人的な社会的スキルや社会に対する意識や態度などに影響する社会的知識の学習も, 規範意識を研究していく上で大事であるとしている。また, 八巻(2009)<sup>13)</sup>は, 規範意識を行動に結びつけるためには, 自らをコントロールできる自律心, 自制心を育てることの重要性や, 向社会的行動も含めて具体的場面を意識し育てていく必要性があるとしている。つまり, 人としての自己の在り方に気づいたり, 相手の立場に立って考えたり, 活動を通して自己と他者との関係性を保ったりする社会的な能力を, 実感を伴った体験活動の中で育成することが必要になってくるのである。ここで, そのような体験的な活動を支える包括的な心理教育プログラムとして, 小泉(2005)<sup>14)</sup>が紹介した社会性と情動の学習プログラム(Social and Emotional Learning, 以下SEL)があ

る。香川・小泉(2006)<sup>15)</sup>は, SELを単独で実施するのではなく, カリキュラムにSELを位置づけることで, SELによって獲得された社会的能力の般化や定着の促進につながることを確認している。また, 堤・小泉(2008)<sup>16)</sup>は, 教科・道徳・特別活動・総合的な学習を関連づけたプログラムにSELを位置づけたことにより, 他者への思いやりや対人関係能力の向上を報告している。

ただし, 従来の規範意識や問題行動に関する研究では, 規範意識の高まりや規範的な行動を促すため, 教科・領域を横断的に組み込んだ単元構成に心理教育プログラムを組み合わせた研究は報告されていない。また, 規範意識に関する研究は中学生が中心であり, 小学生を対象に実証的に検証した研究は今のところ見あたらない。以上のことから, 本研究では小学生を対象に, 教科・道徳・特別活動・日々の教育活動にSELを取り入れた総合単元プランを作成・実施し, 規範意識の高まりや規範的な行動を促す教育活動の効果について探ることを目的とする。その際, 現在ある規範に関する尺度を参考にしながら, 学校生活を中心とした規範的な行動を測定するための尺度として規範測定尺度を作成することとした。

## 方法

### 調査対象

福岡県内の公立小学校1校の, 5年生2クラス71名(男子38名, 女子33名)の児童を対象とした。一つの学級(男子19名, 女子16名)が実験学級で, 他方を統制学級(男子19名, 女子17名)とした。

### 評定尺度

#### ①規範測定尺度

福岡県教育センター(2008)<sup>7)</sup>, 群馬県教育センター(2007)<sup>8)</sup>, 栃木県教育センター(2006)<sup>9)</sup>が作成している規範意識や規範的な行動に関するアンケート調査をもとに作成した。作成するに当たって, 3つのアンケート調査に共通した質問項目を集めるとともに, 児童が学校生活を送る中で必要な規範であり, 教師の指導に関わるものを厳選し, 15項目にした。選んだ15項目については, その内容から以下の3つに分けた。自分に関する規範として自己規範(5項目: 整理整頓, 挨拶, 食事, 後片付け, 言葉遣い), 他者に関する規範として他者規範(5項目: 思いやり, 謝罪, 感謝, 寛容, 信頼), 集団に関する規範として集団規範(5項目: 役割, 協力, みんなの物, 学校のきまり, 社会のきまり)で構成されている。この規範測定尺度は, 各項目に対して, 「いつも」「だいたい」「あまり」「まったく」の4件法(4~1点)で児童の自己評価による評定を求めた。得点が高いほど, 児童自身が規範的な行動ができていると認識していることを示す。

#### ②SEL 8つの能力尺度

SEL 8つの能力尺度<sup>17)</sup>を用いて、児童の社会性を支える8つの能力（自己への気づき、他者への気づき、自己のコントロール、対人関係、責任ある意志決定、生活上の問題防止のスキル、人生の重要事に対処する能力、積極的・貢献的な奉仕活動）の測定を行った。24項目（3項目×8因子）について「いつも」「ときどき」「あまり」「ぜんぜん」の4件法（4～1点）で評定を求めた。得点が高いほど、それぞれの能力が高いことを示す

③総合単元プラン実施中の自己評価

総合単元プラン実施中に、道徳（2時間）と総合的な学習の時間を使って行うSELのエクササイズ（3時間）の毎時間の学習後に、学習に関する児童の自己評価を行った。学習への満足感、規範意識や規範的な行動の日常化の高まり、社会的能力の定着などを評定した。

総合単元プランの立案

7月に調査対象の2クラスの全児童に実施した規範測定尺度（試作版）の結果、実験学級と統制学級の課題となる規範項目として協力、信頼、言葉づかいが明らかになった。そこで、不足している規範項目を補うための総合単元プランのテーマを「人とのつながりを実感し、互いに協力し支え合う実践」と設定するとともに、児童の課題意識を明確にしなが、教科、道徳、特別活動、日常的な活動を組み合わせたものに、SELのエクササイズを入れた総合単元プランを作成した（Figure 1）。作成にあたっては、夏期休業中に、第1著者と実験学級担任教師で内容の構成や実施計画等について3回にわたり協議し決定した。この総合単元プランは、道徳の「信頼・友情」「思いやり・親切」や、集会活動・話し合い活動などの特別活動と、社会的能力を育むSELのエクササイズを組み合わせること

第5学年 総合単元プラン実践編（2学期）

- 1 テーマ 人とのつながりを実感し、互いに協力し支え合う実践
- 2 プランの目標
  - 人と円滑に関わるためのコミュニケーションスキルを身につけることができる。
  - 相手の立場や気持ちを考え、互いに協力し、助け合うことができる。

時期	道徳	教科・特別活動	総合 (SEL)	課外 (朝の会、帰りの会)
10月中旬		体育（7時間） バスケットボール（7時間） ・チームの仲間と協力して、チームの課題や作戦に応じた練習を行う。	チームの中で、お互いの気持ちを分かち合って、楽しくバスケットがしたい。	
10月下旬	言葉だけでなく、表情やしぐさで伝えるな。バスケットでシュートが入ったら、みんながポーズを決めよう 道徳（1時間）2-(3) 言葉のおくりもの ・男女が仲良く協力するために大切な心について考える。	お互いに相手のことを認め合う心が大切だな。	表情やしぐさで伝えよう ・非言語的コミュニケーションスキルを身につける。	手拍子ゲーム
11月上旬		クラスのみんなが、もっと仲良しになったらいいな。	まほうのリング ・集団で力を合わせてなげっこをする喜びを味わう	社長さんゲーム
11月中旬	○○さんが、はげましてくれました。とてもうれしい。	学級活動（1時間+課外） 5の4仲良し集会をしよう ・みんなが仲良くなる集会の計画を立てる。 ・仲良し集会をおこなう	お互いに仲良くなるためには、どんな言葉かけが必要か あたたかい言葉で ・あたたかい言葉のかけ方を知り、使うことができるようにする。	ナンバークール
11月下旬	道徳（1時間）2-(2) くずれおちた段ボール箱 ・困っている人に親切する心について考える。	心の中にもっているあたたかい心をもっとふやしたいな。	あたたかい言葉をかけると、お互いに気持ちよくなる。普段から使ってみよう クラスのみんなが、すばらしいよさをもっている。お互いに仲間としてこれからも助け合おう。	アドジャン 共同スケッチ
		学級活動（1時間） 自分や友達の良いところをのぼそう ・自分や友達の良いところを紹介し合う。		バースデーサークル

Figure1 総合単元プランの実施計画

で、規範意識を育み、規範的な行動が実践できる児童の育成を目指す大単元構成とした。

その際、それぞれの学習や活動を組み合わせることによる効果を高めるために、以下の2点に留意して指導することとした。①道徳、特別活動、教科とSELのエクササイズに関連を説明したり、意識づけたりするような発問をする。②それぞれの学習の関連が分かるような視覚的な教室内掲示物を用い、児童に意識づける。

実施手続き

2つの尺度を使った調査は、2009年10月上旬に第1回目、取り組み終了後の同年12月上旬に第2回目を実験学級と統制学級の両方で行った。手続きとして

は、学級担任が、「このアンケートはテストではありません。正しい答えや、間違った答えはありません。ですから、日頃の自分の行動を振り返り、よく考えて答えてください」という教示文を読んだ。その後、読み取りの解釈での混乱を避けるため、担任教師が1項目ずつ読み上げて回答させた。

実験学級では、総合単元プランを実施したが、総合単元プランに入っている道徳や特別活動、教科の題材や単元は、年度当初に決められた年間カリキュラムに全て含まれているので、総合単元プランを行わない統制学級も、同じ時期に道徳や特別活動、教科等の学習は行う。2つの学級の違いは、SELのエクササイズは実験学級しか行わないことと、もう一つは、総合単元プランが、子どもの課題意識や学習内容をつないでい

第5学年 総合的な学習の時間 指導案

題 材 あたたかい言葉で

本時の目標

○ あたたかい言葉かけの価値やあたたかい言葉のかけ方について知り、実際に使うことができるようにするとともに、その良さを味わうことができる。

準 備

ワークシート、振り返りカード

学習指導の過程

活 動 と 内 容	教師の支援
<p>1 2つの言い方を聞いて違いを出し合い、本時のめあてをつかむ。 遠足の時、みんな疲れた状態で、一生懸命に歩いて学校に帰っているとき</p> <p>① 「ねえ、前があいてる。もっと早く歩いてよ。」 一冷たい感じ、意地悪、イヤな感じ</p> <p>② 「足が痛いと思うけど、もう少し、がんばろう。」 一励ましている。応援してくれている。あたたかい感じ</p> <p>言葉かけにはあたたかい言葉かけと、つめたい言葉かけの2種類があります。</p>	<p>☆2つの言い方を例に取り上げ、言葉かけの使い方で、相手に与える感じ方が違うことに気づかせる。</p> <p>☆あたたかい言葉かけの必要性を実感できるように、普段の生活の中で、自分がどんな言葉かけをしているか想起させる。</p>
<p>めあて あたたかい言葉かけ名人になろう。</p>	
<p>2 あたたかい言葉のかけ方を練習する。 (1) あたたかい言葉のかけ方について考える (名人のポイント)</p> <p>① あたたかい言葉をかけるには、本気で相手の人をほめたり感謝したりすること</p> <p>② 話し方としては、相手の人の様子を言った後に、感情を表す言葉をつけて言う(相手の人の様子+気持ちを表す言葉) 例 あなたは、毎日宿題をきちんとしていますね。+すばらしいね。</p> <p>③ 言うときの注意 ・相手に近づく ・相手をきちんと見る ・聞こえる声で言う</p>	<p>☆あたたかい言葉かけには、言葉だけでなく非言語スキルも大事であることに気づかせるために、教師の演技を見せる。</p> <p>☆方法の認知だけでは簡単にはできないので、数人の児童に代表で演じてもらう中で良い点や改善点を全体場で確認しあうことで、あたたかい言葉かけのイメージを児童にもたせる。</p>
<p>(2) あたたかい言葉のかけ方の練習をする。 ① 2~3人の児童がモデルとしてあたたかい言葉かけを行う。 ② 隣の人と一緒に交代で練習する。</p>	<p>☆お互いにあたたかい言葉かけになっているか評価できるように、ワークシートの中に、あたたかい言葉かけチェックシート項目を準備する</p>
<p>3 いろいろな人と交代しながら、友だちの頑張っていることや努力していることに対してあたたかい言葉をかける。 ① 数名の児童に対してあたたかい言葉を事前に考える。 ② いろいろな人と交代して、あたたかい言葉かけを練習する。 ③ あたたかい言葉かけ達人を紹介し合う。</p>	<p>☆非言語スキルを活用し、あたたかい言葉のかけ方が上手な児童を賞賛する。</p>
<p>4 本時の活動を振り返る。 ① 本時の活動を振り返って思ったこと、考えたこと ② あたたかい言葉かけについて</p>	<p>☆本時の活動の気づきを共有化できるように、振り返りカードに感想を記入させると共に、感想を出し合う場を設定する。</p>
<p>言葉かけ1つで、周りの人との人間関係は良くも悪くもなってしまう。よりよい人間関係を作り、明るく楽しい学級にするために、あたたかい言葉かけはとても大切である</p>	

Figure2 SELのエクササイズ指導案の例

ることである。

実験学級の総合単元プランの大部分は学級担任が行い、第1著者は児童の学習の様子を観察した。ただし、SELのエクササイズは第1著者が行い、学級担任が児童の様子を観察した。統制学級については、すべての活動をその学級担任が実施した。

結果

規範測定尺度

まず尺度そのものについては、下位尺度ごとに主成分分析を実施した結果、第1主成分の説明率は自己規範が37.66%、他者規範が45.79%、集団規範が40.04%

であり、下位尺度ごとに単一構造であると判断した。

実験群と統制群の得点については、群ごとの2回の調査結果とその差をまとめ、さらに、両群の差の検定結果をTable 1にまとめた。Figure 3に示すとおり、他者規範において、実験群の調査時期間の差は有意に大きかった。また、Figure 4に示すとおり集団規範においても、実験群の調査時期間の差は有意に大きくなる傾向を示した。

SEL 8つの能力尺度

Table 1に示すとおり、自己への気づき、他者への気づき、自己のコントロール、対人関係で、実験群の調査時期間の差は有意に大きかった。また、人生の重

Table 1 評定尺度の下位尺度ごとの平均値とSD、及び検定結果

規範測定尺度	実験群			統制群			差の検定結果 t値
	第1回	第2回	差	第1回	第2回	差	
自己規範	2.90 (0.43)	3.03 (0.41)	0.13 (0.39)	3.17 (0.42)	3.21 (0.38)	0.03 (0.35)	1.21
他者規範	3.23 (0.48)	3.39 (0.42)	0.15 (0.37)	3.28 (0.38)	3.16 (0.46)	-0.12 (0.48)	7.00 *
集団規範	3.29 (0.39)	3.36 (0.44)	0.08 (0.33)	3.44 (0.44)	3.35 (0.41)	-0.09 (0.38)	3.88 +
SEL8つの能力尺度							
自己への気づき	3.28 (0.54)	3.48 (0.51)	0.20 (0.42)	3.40 (0.44)	3.31 (0.46)	-0.09 (0.40)	8.77 ***
他者への気づき	3.10 (0.48)	3.30 (0.45)	0.20 (0.42)	3.19 (0.46)	3.13 (0.45)	-0.06 (0.40)	8.26 **
自己のコントロール	2.84 (0.69)	3.10 (0.64)	0.27 (0.44)	2.94 (0.55)	2.94 (0.58)	0.02 (0.47)	5.16 *
対人関係	3.09 (0.49)	3.30 (0.53)	0.22 (0.35)	3.19 (0.45)	3.15 (0.45)	-0.04 (0.41)	7.73 **
責任ある意思決定	2.95 (0.61)	3.14 (0.45)	0.19 (0.46)	3.01 (0.45)	3.18 (0.53)	0.17 (0.46)	0.05
生活上の問題防止のスキル	3.56 (0.54)	3.71 (0.48)	0.71 (0.47)	3.58 (0.42)	3.65 (0.41)	0.65 (0.40)	0.40
人生の重要事態に対処する能力	3.06 (0.60)	3.15 (0.49)	0.10 (0.40)	3.17 (0.36)	3.09 (0.49)	-0.08 (0.43)	2.89 +
積極的・貢献的な奉仕活動	3.14 (0.44)	3.30 (0.47)	0.16 (0.26)	3.04 (0.54)	3.19 (0.42)	0.15 (0.55)	0.00

+ p<.10, \* p<.05, \*\* p<.01, \*\*\*p<.005

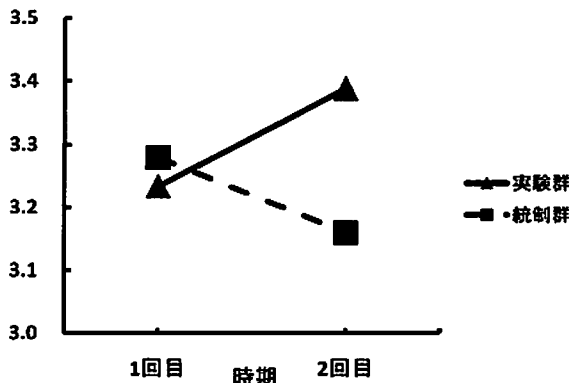


Figure3 他者規範の測定時期ごとの平均値の推移

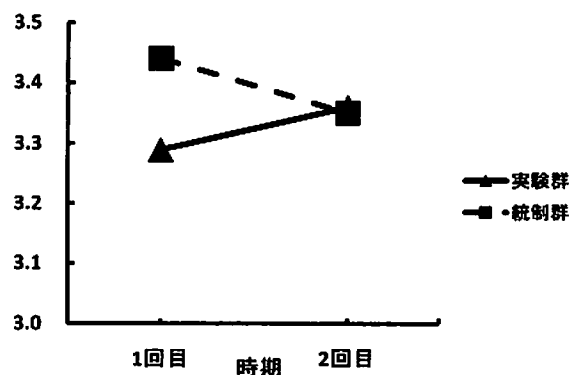


Figure4 集団規範の測定時期ごとの平均値の推移

要事態に対処する能力については、有意な傾向が見られた。

### 総合単元プラン実施中の自己評価

総合単元プラン中に行った道徳とSELのエクササイズ実施後の児童による自己評価の結果をTable 2 に示した。道徳については、学習中の規範意識の高まりが約80%前後の児童に見られた。また、同じく約80%前後の児童が、学んだことを日常生活に生かそうと規範的な行動への高い実践意欲を示した。またSELについて、児童は学習を重ねるごとに授業の中で社会的能力を身につけていることを実感するとともに、日常生活への活用の意欲を高めることができた。

### 考 察

本研究の目的は、児童の規範意識の高まりや規範的な行動を促すために、教科・道徳・特別活動・日々の教育活動にSELを取り入れた総合単元プランの効果を探ることと、規範的行動を測定するための尺度を作成することであった。

### 総合単元プラン

3つの規範の中で他者規範について、有意差が認められた。友達と関わる際に大切な相手への思いやりや信頼などの規範意識が高まり、規範的な行動の日常化につながっていくと推測される。これは、総合単元プランの中の道徳の学習において、お互いのよさを認め、互いに協力し合うことの大切さを学んだり、SELのエ

クササイズで相手が気持ちよくなる言葉かけのスキルを身につける学習を行ったりしたことが有効であったのではないかと考えられる。また、集団規範について有意な傾向がみられた。それは、特別活動の仲良し集会や課外でのミニゲームなどの集団活動の中で、SELのエクササイズで身につけた対人関係のスキルを生かしながら、友達と協力することや集団の中で役割を果たすことなどを体験できたことが有効であったのではないかと考えられる。

しかし、自己規範について有意な差が見られなかった。これは、今回の総合単元プランが、道徳の「信頼・友情」「思いやり・親切」や、集会活動・話し合い活動など他者や集団との関わりを中心に構成したプログラムであって、自分自身に関する規範（挨拶、整理整頓など）の内容が含まれていなかったことが要因ではないかと考えられる。今回行った総合単元プランは、白井・橋川(2007)<sup>11)</sup> が示した学校教育現場における規範意識を高めるための具体的な指導方策が明らかになっていないという課題に対する1つの答えになるのではないかと考えられる。

SELの自己評価尺度の8つの能力ごとの結果では、自己への気づき、他者への気づき、自己のコントロール、対人関係の4つについて、有意差が見られた。また、人生の重要事態に対処する能力についても、有意な傾向が見られた。本研究では、約2ヶ月という短期間での実践であったが、5つの能力に有意な効果が見られた。これは、対人関係や他者の気づきの2つの能力に関するSELのエクササイズを集中的に行ったことと、SELのエクササイズで学んだスキルに関する情報

Table2 学習後の児童による自己評価

道徳	言葉のおくりもの 2-(3)友情	くずれ落ちた段ボール箱 2-(2)親切
1. 今日の学習はどうでしたか。(学習に対する満足感)		
ア とても楽しかった	20人(57%)	22人(63%)
イ まあまあ楽しかった	15人(43%)	13人(37%)
ウ あまり楽しくなかった	0人(0%)	0人(0%)
エ まったく楽しくなかった	0人(0%)	0人(0%)
2. 今日の学習で学んだ大切な心について、よく分かりましたか(学習中の規範意識の有無)		
ア とてもよく分かった	26人(74%)	28人(80%)
イ まあまあ分かった	9人(26%)	7人(20%)
ウ あまり分からなかった	0人(0%)	0人(0%)
エ まったく分からなかった	0人(0%)	0人(0%)
3. 今日の学習で学んだ心は、日ごろの生活の中で生かしたいと思いませんか。(日常生活への規範的な行動の活用)		
ア とても生かしていきたいと思う	27人(77%)	29人(82%)
イ まあまあ生かしたいと思う	8人(23%)	6人(18%)
ウ あまり生かしたいと思わない	0人(0%)	0人(0%)
エ まったく生かしたいと思わない	0人(0%)	0人(0%)

SEL	表情やしぐさ で伝えよう	まほうのリング	あたたかい言葉で (欠席1名)
1. 今日の学習はどうでしたか。(学習に対する満足感)			
ア とても楽しかった	31人(89%)	33人(94%)	33人(97%)
イ まあまあ楽しかった	4人(11%)	2人(6%)	1人(3%)
ウ あまり楽しくなかった	0人(0%)	0人(0%)	0人(0%)
エ まったく楽しくなかった	0人(0%)	0人(0%)	0人(0%)
2. 学習する前と比べて、今日の学習で学んだことはできるようになりましたか。(学習中の社会的能力獲得の有無)			
ア とてもできるようになった	19人(54%)	28人(80%)	29人(85%)
イ まあまあできるようになった	16人(46%)	7人(20%)	5人(15%)
ウ あまりできていない	0人(0%)	0人(0%)	0人(0%)
エ まったくできていない	0人(0%)	0人(0%)	0人(0%)
3. 今日の学習で学んだことは、日ごろの生活の中で使いたいと思いませんか。(日常生活への社会的能力の活用)			
ア とても使いたいと思う	21人(60%)	25人(71%)	27人(79%)
イ まあまあ使いたいと思う	14人(40%)	10人(29%)	7人(21%)
ウ あまり使いたいと思わない	0人(0%)	0人(0%)	0人(0%)
エ まったく使いたいと思わない	0人(0%)	0人(0%)	0人(0%)

が教室に掲示され、児童の意識化・行動化を促したことが有効であったのではないかと考えられる。このことに関しては、米国でSELを推進しているイライアス M.Jら (1999) <sup>18)</sup> も、SELが効果的に行われている学級では、SELのステップやルールなど学習に関する情報が掲示されていると述べており、学習環境の重要性は日米で共通していると言えよう。

堤・小泉 (2008) <sup>16)</sup> は、SELのエクササイズと、道徳や特別活動、総合的な学習を組み合わせさせたプログラムによって児童の対人関係や思いやりの心の育成に効果があるとしている。本研究においても、対人関係や他者規範の育成に効果があることが分かった。このことから、道徳や特別活動にSELのエクササイズを組み合わせさせた横断的な教育プログラムが、児童のさまざまな能力の育成に有効であることが明らかになったと言えよう。今後は、従来行われている教育活動を横断的に組み直すことや、さまざまな心理教育プログラムを適切に取り入れた試行的な実践が考えられる。

#### 規範測定尺度

今回作成した規範測定尺度は、学校生活を中心とした規範的な行動を測定するためのものであり、当初予定した基本的な構造をほぼ確認することができた。しかし、次の3つの点で課題を残した。まず1つめは、データが71名と少なく下位尺度ごとの主成分分析以外には妥当性の確認ができなかったことである。今後は、被験者数を増やし、因子構造等を確認する必要がある。

2つめは、児童の自己評価と行動の関係を検討していないことである。自分を過大評価したり、過小評価したりする児童がいると考えられるので、今後、尺度の実施と同時期に、教師の評価や児童の相互評価などを実施することによって、より多面的に規範的な行動を検討する必要がある。

3つめの課題は、この尺度がどの学年にも使えるものではないという点である。今回作成した尺度は、相手の立場を考えた行動や、責任を持って行う行動ができる小学校上学年(4~6年生)向けに考えた。そこで、今後は、規則正しい生活や約束やきまりを守ることが重要な小学校下学年(1~3年生)向けに規範意識や規範行動を測定する方法の検討が求められる。

#### まとめと今後の課題

児童の規範意識を高め、規範的な行動を促すためには、道徳・特別活動・日々の教育活動にSELのエクササイズを組み合わせさせた総合単元プランが有効であることが明らかになった。

今回は、1学級での取り組みであったが、規範意識の高まりや規範的な行動の広がりや学年・学校全体へと広がることを望ましいと考える。今後は、本研究で作成した総合単元プランを学校全体の教育課程に位置

づけることが課題となってくる。

文部科学省 (2006) <sup>19)</sup> でも、児童生徒の規範に対する認識と理解の向上を図るために、学校や社会のきまり・ルールを守ることの意義・重要性について、学級活動や道徳の時間等で繰り返し指導をおこなうことを述べている。そのためには、まず、全校児童の規範意識や規範的な行動についての実態や、教員の思いや願いなどを把握する必要がある。その実態を分析した上で、校内研修会を通して、学校の課題や今後の方針等について、本研究の成果も交えながら、現場の教員に丁寧に説明し、実施する上での共通理解を十分図ることが大切であると考えられる。

#### 引用文献

- 1) 日本青少年研究所 2002 中学生の規範意識
- 2) 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2009 小学生・中学生の逸脱行為の経験 20-24
- 3) 文部科学省 2008 小学校学習指導要領総則編
- 4) 福富孝夫 1977 規範 牛島義友・他(編)新・教育心理学辞典 金子書房
- 5) 小関八重子 1999 社会規範 中島義明・他(編)心理学辞典 有斐閣
- 6) 北川隆吉 1984 現代社会学辞典 有信堂高文社
- 7) 福岡県教育センター 2008 研究紀要No162 規範的な行動を促す指導の手引
- 8) 群馬県総合教育センター 積極的な生徒指導調査研究チーム 2006 学校・家でのルールやきまりについてのアンケート
- 9) 栃木県総合教育センター 研究調査部 2006 子どもの生活に関するアンケート
- 10) 大久保智生・加藤弘通 2008 問題行動の経験と規範意識による生徒の類型化とその特徴 心理科学, 29, 101-102
- 11) 白井茉莉・橋川真彦 2007 中学生における規範意識とそれに影響を及ぼす要因 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要, 30, 165-173
- 12) 二宮克美 1991 規範意識の発達および非行・問題行動と道徳性との関係 金子書房
- 13) 八巻寛治 2009 ローカルルールや価値のすり合わせを大切に折り返いの指導・援助 学校マネジメント 明治図書, 637, 52-53
- 14) 小泉令三 2005 社会性と情動の学習 (SEL) の導入と展開に向けて 福岡教育大学紀要, 54(4), 113-121
- 15) 香川雅博・小泉令三 2006 小学校中学年における社会性と情動の学習 (SEL) プログラムの試行 福岡教育大学紀要, 55(4), 147-156
- 16) 堤さゆり・小泉令三 2008 効果的なボランティア学習のための単元構成の工夫事例 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター教育実践研究, 16, 137-144



- 17) 宮崎晃子・田中芳幸・入慶田本早・津田彰・小泉令三 2004 社会性と情動 (SEL) 尺度の開発 子どもの心・体と環境を考える会学術大会紀要(日本子ども健康科学研究会), 53
- 18) イライアス.M.Jら (著), 小泉令三 (翻訳) 1999 社会性と感情の教育—教育者のためのガイドライン39— 北大路書房

- 19) 文部科学省 2006 児童生徒の規範意識の醸成に向けた生徒指導の充実について

#### 付 記

本研究に御協力いただいた教師の方々に心より感謝いたします。